

ミソハギ科 ヒメミソハギ属

ホソバヒメミソハギ (細葉姫稈萩)

Ammannia coccinea Rottb.

自生環境

水田、湿地 など

原産地

熱帯アメリカ

予想される被害



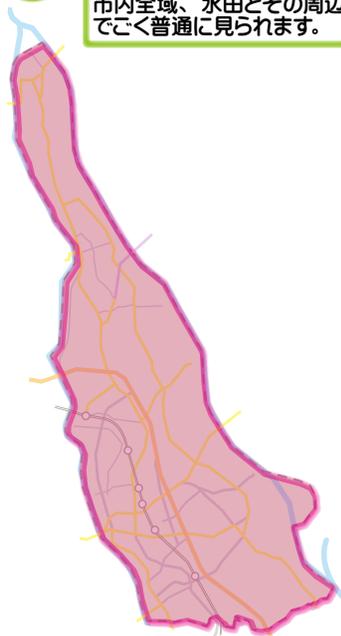
かなり前から水田雑草として入りこんでいます。繁殖力が強いので、しばしば一面の群生となることもあり、他の希少な水田雑草の生育を脅かす存在となっています。

特徴

- ☆ 関東地方以西の湿った場所にごく普通に生え、「水田雑草」としておなじみの存在となっています。タネでよく増える上に、きわめて丈夫で、除草剤への耐性も身につけています。
- ☆ 茎はまっすぐ立ち上がり、次から次へと枝分かれしながら50～80 cm ほどの高さになります。ただ草丈は環境によって大きく変動し、ときに 10cm くらいの大きさで開花・結実しているものも見かけます。葉はみずみずしく表面はつやがあります。長さ3～8 cm くらいの細長いかたちでつけ根は耳のように張りだして茎を抱きます。晩秋になると鮮やかに紅葉します。
- ☆ 夏から秋にかけて、葉のわきに小さな赤紫色の花を咲かせます。柄はとても短く、花や果実は葉のわきに直接ついているように見えます。果実は球形に膨らみ、成熟すると真っ赤になって皮が破れ、多数の細かいタネを落とします。

市内の分布状況

市内全域、水田とその周辺でよく普通に見られます。



交雑してパワーアップ

ホソバヒメミソハギは *A. auriculata* (ナンゴクヒメミソハギ) と *A. robusta* (和名なし) の2種が交雑した結果できた種類と考えられています。交雑によって性質が強くなり、どんどん増えて今や世界の広範囲に進出しているといえます。片親のナンゴクヒメミソハギは、今のところ市内では見つかっていませんが、近年関東でも記録が相次いでおり、いずれ発見されるかもしれません。



花や果実は葉のわきにつく



果実の中には砂のように細かいタネがびっしり

果実はがくに包まれながら大きくふくらむ

葉は長さ3～8cmの細長いかたち



朝の冷え込みが強まると草全体が赤く色づく



花の直径は約4mm。花びらは4枚



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

